レッスン：SPA:14

テーマ：14芒星/14のステーション

SPA 14.DOC/PYRN3.KE6/1095

私の兄弟・姉妹たち、霊、光、火の子供たち。

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

過去において私たちはキリストロゴス絶対存在について話しました。それは絶対存在のロゴス的本質です。そして絶対存在の本質としてのその特質はパワーのなかにあり、それは最初のスパークであり、言い換えるなら神の黙想の活動の原因です。

絶対存在としてのキリストロゴスがありますが、またこの神の黙想のなかにもキリストロゴスがあります。しかし神の黙想のなかでキリストロゴスが表現されるためには、キリストロゴスが通過するもう一つの手段が必要であり、絶対存在のなかにはPanAyia、処女マリア絶対存在としての法則的質があります。

ですから、キリストロゴス絶対存在があり、PanAyiaまたは処女マリア絶対存在がありますが、キリストロゴスが汎宇宙的キリストロゴスとして現れるためにはPanAyiaまたは処女マリア絶対存在を通過しなければならないのです。神の黙想のなかで絶対存在の別の表現が現れるためにも、同様に処女マリア絶対存在と述べたこの質を通過する必要があるのです。

絶対存在のダイナミックなイデアによるアークエンジェルのオーダーも、この法則を通過しています。創造界の諸世界における現れがありますが、それもまたこの質、この法則、この特質の現れです。なぜなら、それもまた絶対存在の本質における特質だからです。そしてthe Widest of Heavens としての現れがあります。創造界における現れ、神の黙想の活動における現れとしての処女マリアは今や色を帯びます。そして宇宙をその中に抱くthe Widest of Heavens　があり、勿論、汎宇宙的キリストロゴスとしてのキリストロゴスがあり、ダイナミックな現れは様々なアークエンジェルのオーダーとして表現されます。

以前私たちはthe Widest of Heavensは八芒星によって象徴されると述べました。それは八つのポイントがある回転する星で、生命の木にそれを見いだすことはできません。なぜ生命の木の上にそれがないのでしょうか？なぜなら、それはあらゆる所に遍在しているからです。もしそれを見いだすのなら、その位置は三番目の十字架にあるべきです。しかし、それはそこだけにあるのではなく、絶対存在のアウタルキー内のあらゆる所にあります。創造界は神の黙想の活動の結果であり、それは絶対存在のアウタルキーの中にあるのです。

ですからthe Widest of Heavensを象徴する八芒星があります。汎宇宙的キリストロゴスのシンボルは何でしょうか？以前、存在の諸世界、創造界の諸世界におけるキリストロゴスは二つの三角形から成る六芒星によって象徴されると言いました。下向きの三角形と上向きの三角形です。実際には、下向きの三角形だけがキリストロゴスに属するのであり、上向きの三角形は人間のロゴス的現れに属します。

なぜ以前に六芒星がキリストロゴスを現す、と述べたと思いますか？あなたは現れとしてのキリストロゴスを人間から切り離すことができますか？答えはノーです。実際、人間はキリストロゴスなのですが、全体としての人間、諸宇宙における全体としての人間は創造界のなかにあります。誰のなかにもキリストロゴスのスパークがあり、宇宙における全ての人間を照らす光です。

Page2

ですから、このシンボルは汎宇宙的キリストロゴスとしてのキリストロゴスに属します。しかし、人間の自己実現のレベルへの到達、内なる本質を現すことについて話すとき、私たちは上向きの三角形の内側に十字架が必要です。なぜなら、そのレベルの現れまで上昇するためには、多くの経験を通じてある種のプロセスを経る必要があるからです。そして現在のパーソナリティーの諸体をマスターし、四つのエレメントをマスターしたとき初めて、人はキリスト意識と呼ばれる現れのレベルに到達できるのです。人が主、キリストロゴスと一つになるのです。

七芒星もありますが、それは何を示しているのでしょうか、人間がそれに到達可能なのでしょうか？六芒星は到達可能であると言いました。しかし七芒星は現在のパーソナリティーとしての人間には到達できず、自己実現した魂のセルフ・エピグノシスによって到達することができます。その時、その魂は創造界の七つのヘブンを支配しています。

存在の諸世界、生の諸世界のみならず、この物質界、実存の諸世界、生の現象の諸世界においてもキリストロゴスの現れがあります。そしてこの現れを表現するためにはパーソナリティーとしての大いなる母、the Widest of Heavensの現れが必要です。そして、現在のパーソナリティーとしての処女マリアがいますが、それは一般的な現在のパーソナリティー、転生のサイクルの結果としてのパーソナリティーではなく、絶対存在全体の輝きに耐えられる特別な体です。処女マリアが普通のパーソナリティーであったなどと決して考えないでください。

彼女を通じて誕生があるのでしょうか？実際にはそれは誕生ではありません。初めは現象的には人間に理解されているような幼児の現れであり、それはイエス・キリスト・ロゴスの現れです。

さて、もし人間と比較するなら、イエス・キリスト・ロゴスである幼児は何を示しているのでしょうか？私たちは幼児性というものを経験します。どれほど多くの転生の間それを経験するかはそのパーソナリティーによります。

このイエス・キリスト・ロゴスの表現は、14のポイントのあるもう一つの星によって示されています。現在のパーソナリティーとしてのイエス・キリスト・ロゴスを示す14芒星がありますが、同時にそれは生の現象としての人間をも示しています。

彼の誕生の地を訪れた人なら彼の誕生のまさにその位置にその星を目にしたことでしょう。実際にそれが何を意味するかをわからないまま、それはそこに置かれたのです。たんなる内側からのひらめきで、その星がそこに置かれたのです。

その星は何を示しているのでしょうか？前にも述べたように、彼は全ての人間の内側に存在し、彼がこの世界で現在のパーソナリティーとして彼自身を現す時、それは自分自身を現している全体としての人間なのです。イエス・キリスト・ロゴスとしての彼の活動は全人類の活動なのです。人類の総体的な気づきのレベルがそれを許したとき、彼はこの惑星を訪れたのです。道を完成させるためにです。

14芒星は何を示しているのでしょうか？それは現在のパーソナリティーとしての人間が最終的にその内なる本質を表現するために経なければならない成長、進化のサイクルを示しています。 人間は幼児としてスタートし、蓋然的可能性のサイクル、つまり様々な経験のサイクル、意味として多くの苦しみのあるサイクルを経験します。ですから、この14芒星はこのサイクルを示しています。

何故14のポイントがあるのでしょうか？ヴィアドロローサ（＊キリストが歩んだ処刑地、ゴルゴダの丘までの道）を訪れたことのある人なら、そこには14のステーションがあるのを知っているでしょう。勿論、ヴィアドロローサの最初のステーションの前に、人間は成長、進化のこの道を経験する決意が必要です。そしてゲッセマネで彼は捕らえられたのです。それは彼の意志でした。もし望むならそれを避けることもできたのですが、彼はそのプロセスを経ることを欲したのです。

1. 最初のステーションで彼はポンティウス・ピラトによって非難されました。
2. 二番目のステーションがあり、そこでは現在のパーソナリティーが苦しみのサイクル、痛みのプロセス、経験のサイクルに入ります。彼はむち打たれ、彼らは彼にイバラの冠を被せます。彼は重い十字架を背負わされ、現在のパーソナリティーとして歩き始めました…経験という重荷のなかを、四つのエレメントのなかを。なぜなら以前述べたように、十字架は四つのエレメントを示し、それは受難、犠牲のシンボルです。何を犠牲にする？四つのエレメントの諸世界に入ることによってバランスへの調和を犠牲にします。ですから、彼の活動、今や無知の結果として経験という重荷を背負う人間の活動があります。
3. 三番目のステーションに来ました。人間は十字架の重荷、苦しみの重荷に耐えることができず、最初の転落があります。しかし、全ての人の内側には聖なるスパークがあり、彼は再び立ち上がり、十字架という重荷を背負って進むことができることを覚えておく必要があります。
4. 四番目のステーション。大いなる母がいて、自分の息子が苦しんでいるのを初めて見て、悲しみます。そうです、母親は誰でも自分の子供が苦しみのを見て悲しみます。
5. 五番目のステーション。愛、アガピの現われの結果として、誰かが助けようとしているのが見えます。なぜなら、シモンは、苦しんでいる人を助けようというより高い気づきのレベルに到達した別のパーソナリティーを示しています。そしてシモンは十字架の重荷を背負っているイエス・キリストを助けています。
6. 六番目の道。ベロニカによって表現される悲しみがあります。イエス・キリスト・ロゴスに近づくベロニカは、あらゆる子供を産む母親の愛、全ての女性の愛を示しています。ベロニカは布でもって彼の顔の血を全て拭き取り、そうすることによってその布に最愛のお方、イエス・キリスト・ロゴスの全ての特質が刻印されました。イエス・キリスト・ロゴスとして引き続きゴルゴダを登っていきます。
7. 七番目のステーション。ここでも彼は十字架の重みに耐えきれず、二番目の転落があります。しかし、ここでも彼は再び立ち上がり、道を進んでいく強さを見いだします。
8. 八番目のステーションにはエルサレムの女性たちがいます。エルサレムの女性たちと言うとき、それは泣いている全世界の女性です。そして彼は彼女たちに向かって、彼のために泣かないように、彼のために悲しまないように、と告げます。そうではなく、自分たちのために、自分たちの子供のために泣き、悲しむようにと言い、さらに歩いていきます。
9. 今や彼はゴルゴダに着き、そこは九番目のステーションです。再び彼は重みに耐えられず、十字架の重荷、“苦しみ”の経験という重荷によって三回目の転落があります。

１０，十番目のステーションがあり、人間は十字架に掛けられる用意ができています。人々は彼の衣服を脱がせ、白い下着だけにします。

１１，十一番目のステーションは、十字架の上に釘で留められます。

１２，十二番目のステーションでは彼の現れが肉体から解放されます。

１３，十三番目のステーションは、肉体が十字架から下ろされ、洗われ、墓に運ぶ用意がなされます。

１４，十四番目のステーションは肉体が墓に入れられる時、および蘇りの時の両方です。

ですから、十四のステーションがあります。14芒星があり、これが14芒星が示しているものです…現在のパーソナリティーとしての人間が転生のサイクルの期間中に経験するもの。彼が自分自身について話していた時、彼は全体としてではなく現れとしての人間について述べていました。イエス・キリスト・ロゴスは生まれた息子なのです。いかなる人間も彼を量的にではなく質的に現すことができます。しかし、量的にはできません。

また前に述べたように、現れとしての処女マリアは他の人類と同じではありません。イエス・キリスト・ロゴスのパーソナリティーについても同じ事が言えます。その肉体は、焼き尽くされることなくその光に耐えられるように特別にできていたのです。ですから彼の活動があり、それはまた実存の諸世界における人間の活動でもあります。しかし、人間が転生のサイクルを終え、存在の諸世界に入る時…それは最初の十字架の後に入る世界ですが…そのとき、人間は彼と一つになります。

Page4

現在のパーソナリティーとして今やイエス・キリスト・ロゴスは上昇しなければならなかったのです。皆さんのなかにはそのアセンションの場所を訪れた人もいるかもしれません。それが起きるためには、彼はその現れ、少なくとも大いなる母のノエティカルな現れを通過する必要がありました。それゆえに、まさにそのアセンションの場所に八芒星を意味する八面の小さな建物があるのです。それもまた当時は、そして現在でもそれが何であるかを知らずに建てられたのです。それは八芒星を示しています。なぜなら、彼は八芒星を通じてアセンションする必要があったからです（しかし、物質としての八芒星ではないことを理解してください）。

ですから、八芒星があり、七芒星、六芒星、そして14芒星があります。五芒星もありますか？あります、しかし将来、これら全てのシンボルについてもっと詳しく検討してみましょう。すでにある程度までは説明しましたが。

ゴルゴダを訪れた人なら、なぜすべてがそのような狭い場所に集中しているのか、と不思議に思われたかもしれません。その理由は、ゴルゴダはヨセフの所有地であり、イエス・キリスト・ロゴスが金曜日の午後に横たえられた時、死んだのではなく、その現れが肉体から解放されたとき、それは午後遅くなってのことでした。そして肉体をどこか遠くに運ぶ時間がなかったので、すぐ近くに埋める必要があったのです。翌日は土曜日、安息日であって、埋葬することはできません。そこで人々は近くにあった墓、すぐそばにヨセフの家族の墓があった場所を使うことにしたのです。なぜなら、ゴルゴダの周りは全て、ゴルゴダさえも、ヨセフの所有地だったからです。それゆえに彼らはその肉体をヨセフの家族の墓に埋めたのです。

そのためにその場所には十字架と墓、そして一つの教会があるのです。そして勿論、ヨセフは後に自分のためにもう一つ墓を掘らねばなりませんでした。イエス・キリスト・ロゴスによって使われたヨセフの家族の墓は再び使われることはありませんでした。墓は教会のなかにあります。ですから、教会の傘の下にゴルゴダがあるのです。

もう一つ皆さんが抱く疑問は、何故イエス・キリスト・ロゴスがその特定の地域に生まれたのか、特にヘブライの伝統の地に生まれたのか、ということです。その“スピリチュアルな”人はエジプト、ギリシャ、メソポタミア（ペルシャとインド）からスタートする地域で敬われる必要があったのです。しかし、その中心、その三つの場所から成る三角形の中心はエルサレムでした。

なぜエルサレムが三角形の中心なのか？古代エジプトでは大衆は多くの神々を信じていましたが、エジプトの神秘家たちは一なる神を信じていました。同じように古代ギリシャでも大衆はオリンポスの神々、多くの神々を信じていましたが、神秘家たち、哲学者たち、様々な哲学の学派の神秘学に属していた人々は一なる神、諸宇宙におけるその現れを信じており、その創造界の構造が生命の木として示されています。その当時でさえ、彼らはこのリアリティーの最大そして最小の構造について知っていたのです。そのために、オリンポスの12の神、12の聖なるセンターがあり、私たちはペルシャ、インド、メソポタミアに移ったのです。

ですから、その地域の神秘家たちにとっては一なる神でした。しかし一なる神にフォーカスした一般の人々はモーゼを通じて十戒を与えられた人々でした。それらの十戒は一般に信じられているように岩の上に書かれたのではなく、脳の両半球に書かれたのです。

それゆえに、彼はその信仰の中に生まれたのです。なぜなら、その信仰に旧約聖書の基盤があったからです。そのために彼は古きものを新しいものによって完全なものとするためにその地に誕生したのです。ですから、その疑問に答えが与えられましたね。実際、当時それは真実の神を信じた唯一の“国”、“民族”だったのです。しかし、エジプト人、ギリシャ人、そしてペルシャおよびインドの人々は一なる神を信仰しており、彼らの信仰はキリスト以前のキリスト教と特徴づけることもできます。クリスチャンとは何でしょうか？古代ギリシャ人によれば、クリスチャンとは同胞の人間たちに愛を表現する人々全てです。それがクリスチャンの意味するところです。ですから誰でもクリスチャンになりうるのです。クリスチャンは名前によるのではなく、その人が表現しているものによります。名前上は別の宗教に属していても、クリスチャンであり得ます。「自分はクリスチャンであると思っている人々のなかに、どれほど多くのクリスチャンを見いだすことができますか？」と尋ねたら、あなたは大勢いると考えますか？違います、残念ながらそうではありません。インナーセルフの特質をより多く表現しようと努めている人は誰でもクリスチャンであり、その現れは全人類を益するものなのです。

私たち常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

**質問**

質問：イエスは十字架の上でその現れが肉体を去る直前に、喉の渇きを満たしてくれるようにと頼み、酢い葡萄酒が与えられましたが、その時のイエスの意味は何なのですか？

Ｋ：全ての行為には意味があります。捕らえられる前にゲッセマネで、彼は天なる父に慈悲を示してくれるようにと頼み、彼がその結果を被ることのないように、そのコップから苦みを味わうことのないようにと頼んでいます。彼は現在のパーソナリティーとしての彼自身のために頼んでいるとあなたは考えますか？とんでもありません、彼は自分の兄弟である人間たちに慈悲を示してくれるようにと天なる父に頼んでいるのです。なぜならば、彼は人類全てを活気づけるスパークだからです。さて、十字架に関しては、多くの人々は彼が弱さを示したと考えています。違います、彼は人々のために話していたのです。なぜなら彼は人々を愛していたからです。キリスト・ロゴスは絶対愛、アガピ、汎アガピの現れなので、彼は人間を愛していたからです。ですから、十字架の上で彼が何を現そうとも、それは人々のためだったのであり、全ての言動には意味があるのです。

勿論、将来私たちは少しずつ、少しずつこれら全てを検討し、探求の結果として多くの詳細がゆっくりと少しずつ表面に出て来ます。それは印刷物、本から勉強するような類のものではありません。私たちは探求者であり、私たちの探求によって表面に浮上してくるのです。進めば進むほど、私たちがほんの僅かしか知らないことを認識するようになるでしょう。“真理”、それは相対的真理の様々なレベルであり、その真理は（＊レベルによって）変化し、別の色を帯び、さらに別の色を帯び、というように常に変わっていきます。

このことは真面目な信念についても当てはまりますが、残念なことにそれら全ては静止しており、人々は自分たちが何でも知っていると考えています（全てを知ることは不可能なことですが）。最愛のお方は…あなた方は真理を見いだすためには探求しなければならない、学び、探求しなさい。何もオープンには書かれていない…と言いました。恐らく、それはたとえ話として書かれているかもしれませんが、それは全てではなく、詳しく書かれているわけでもありません。なぜなら、さらに最愛のお方は弟子たちに向かって、豚に真珠を与えることのないように、と述べているからです。そして事実、真剣で真面目な弟子たちは誰もそれらの真珠を紙に書いて与えられてはいません。一人一人がそれぞれ真珠に到達しようと努力するものであり、その真珠とは勿論気づきの上昇に向けて、サイコノエティカルな成長に向けて、現在のパーソナリティーの自己実現に向けて助けとなるものです。

質問：なぜイエスの生涯において33歳までのことについては何も知られていないのですか？

Ｋ：理由ですか？なぜなら、彼は自分の家族と暮らしていたからです。彼の家族と言うとき、それは人間である現在のパーソナリティーである彼の両親です。その年齢においても彼は多くの現象を行っていましたが、しかし彼はまず他の人々と同じように受け入れてもらえるように努力し、それから人間に道を示そうとしたのです。その道とは彼(He)であり、その道は全ての人のなかにあり、私たちから遠く離れたところにあるものではありません。その道はどこか外側に探すものではありません。なぜなら、彼は道として私たちの中にあり、その真理とは生だからです。

質問：ヨセフの所有地についてはどのような意味がありのですか。当時ローマに支配されていたことにも何か意味があるのですか？

Ｋ：もちろん意味があります。もし当時ローマがその地域を占領していなかったなら、ユダが彼を裏切ることはできなかったはずです。なぜなら、ユダはイエスが有していると確信していたその聖性、そのパワーを現わすようイエスに強いていたからです。しかし、ユダは間違っていたのです。なぜなら、イエスは道を示すために来たのであって、地上的なパワーを示すために来たのではないからです。それが実際にあったことです。ユダはお金のために彼を裏切ったのではありません。彼の家族は非常に金持ちでした。しかし、ユダは戦うように、ローマ人をユダヤから出て行かせるように、ローマによる占領から人々を解放するようにとイエスに強いていたのです。しかし、ユダのそのような思いは間違っていたのです。ユダはもっとも献身的な弟子の一人であり、イエス・キリストを疑ってはいませんでした。

それでは、“なぜゴルゴダなのか？”について説明します。というのも、十字架に掛けられたのは本当にその場所なのか、と疑っている人もいます。だからこそ、私たちはそれは確かにその場所で行われ、全てが近くにあった、と述べたのです。その場所であるとどうしてわかるのか？それは聖ヘレンが突然その地点を指し示したからです。いいえ、違います。彼女はアークエンジェル的な現れによって導かれたのであり、全て聖なる場所はそのようにして発見されたのです。

質問：サイコノエティカルな成長についてですが、知的な抽象的活動を行うことができる非常に発達した知的能力の持ち主で、しかしメンタル体があまり発達していないということはあり得るのですか？

Ｋ：あります。つまり気づきのレベルが上昇していないということです。必要なことはその現在のパーソナリティーが全体として平均して調和的に発達することです。例えば、特定の分野で天才的になるために思考としてのノエティカル体にフォーカスし、しかも感情面では成長していない、というのは良くありません。それは、特に他の同胞の人間にとって非常に危険なことです。そのような例はたくさんあります。パワーと能力を発揮し、さらに多大な知識を現していても、他の人々を従わせるような知識のない人。あるいは、多くの人々を引きつけても、最終的には人々を破壊に導くようなリーダーもいます。そのような人は他の体よりもノエティカル体に働きかけたのです。確かに“知識”を通じてノエティカル体だけを発達させることもできますが、もしそれが他の人々のためにならないのなら、そんな知識は何になるのでしょうか。実際、自分は全てを知っていると考えて他の同胞の人間の上に足を乗せるとき、エゴイズムは強くなります。私たちは人々を離れて見、高みから見ます。しかし、真理の探究者はそのようなことは望みません。ですから、バランスある現れとなるために私たちは現在のパーソナリティーを全体的にワークします。言い換えれば、私たちは肉体のエネルギーを高め、それによって肉体を通じて平均した平らな強さを育てるようにします。肉体にエネルギーをチャージし、バランスのあるエネルギーが流れ、肉体が破壊されないようにします。それは蓄電池、バッテリーを持つようなもので、それに充電し、平均してバランス良く外にそれを出します。

質問：意志力、それはどれに属しているのでしょうか？

Ｋ：意志力？それは場合によります。意志力と言うとき、それは何でしょうか？というのも、様々な異なったレベルの現れにそれがあるからです。無知のなかにおいても意志力はあります。人がひどい無知の中にいても、それでも意志の現れがあります。しかし、その意志力は無知のなかにある時は感情体でスパークします。なぜなら、以前述べたように、三つの体の中心はハートのセンターに根ざしているからです。ですから、それをそれぞれ切り離すように努力する必要があります。

意志の力と言うとき、思考・行動の仕方を考慮する必要があります。確かに、私たちのなかには意志のパワーがありますが、それをどのように表現するか、動機は何かが重要なのです。勿論、意志のパワーは意志として、そして後にはブレーシス（＊神の意志）として表現されます。ブレーシスは正しい思考の結果であり、神の表現です。絶対存在が何かを意志するというよりも、絶対存在がブレーシスを現すと言う方が適切でしょう。

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。